

平成30年度「海外SD研修（マレーシア）」 実施報告

開催日時：2018年8月5日(日)～8月11日(土・祝)

参加者数： 8名（大学コンソーシアム大阪会員校以外からの参加者2名を含む）

参加大学数： 6校（大学コンソーシアム大阪会員校以外2大学を含む）

1. 研修の目的

本研修は、大学の教職員を対象とし、以下の3つの目的のために企画された。

- 1) APSSA (Asia Pacific Student Services Association) 国際会議 2018 に参加し、その運営方法や学生のリーダーシップ教育を教職員が行う姿に学ぶ。
- 2) 大学のグローバル化に積極的に取り組むマレーシアの大学を数校視察する。
- 3) 参加者の所属大学の枠を超えた人的ネットワークを構築し、大学間連携や交流の契機とする。

2. 研修到達目標

本研修の到達目標は、以下の3つである。

- ① APSSA 国際会議 2018 に参加するアジア太平洋州の大学教職員、学生との交流や意見交換を通じて、日本（自大学）と異なる事例や取り組みについての見識を深め、自大学の学生支援業務の取り組みに活かすための具体的な案を作成することができる。
- ② マレーシアの大学視察の中から、自大学に提案すべき事項を述べることができる。
- ③ 参加者間の交流を通じて、所属大学の枠を超えた人的ネットワークを構築することができる。

3. 研修日程

研修日程は、以下の表のとおり。

	研修内容
8月5日(日)	関空からクアラルンプールに移動
8月6日(月)	(午前) Taylor' s University 訪問 (午後) プレ・カンファレンス・ワークショップ <University of Malaya にて開催>
8月7日(火) ～ 8月9日(木)	(終日) 第16回 APSSA 国際会議参加 <University Technology Malaysia にて開催>
8月10日(金)	(午前) Heriot-Watt University Malaysia 訪問 (午後) University Technology Malaysia 訪問 (夕刻) クアラルンプールから関空に向けて出発
8月11日(土)	(早朝) 関空到着

4. 研修準備

渡航までに2回の「事前研修会」を開催した。「事研修会」の内容等は、以下の表のとおり。

	研修内容
6月28日(木) 所要時間:2時間	<p><SD研修参加者対象>ファシリテーター:塩川</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者顔合わせ(英語での自己紹介、所属大学の紹介など) <p><SD研修参加者、学生参加者共通></p> <ul style="list-style-type: none"> APSSAについてのガイダンス(担当:塩川) マレーシア渡航準備ガイダンス(資料提供:旅行手配会社) 危機管理ガイダンス(担当:塩川)
7月12日(木) 所要時間:2時間	<p><SD研修参加者対象>ファシリテーター:塩川</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生参加者が英語で行うAPSSA参加目的などのプレゼンテーションを聞く <p><SD研修参加者、学生参加者共通></p> <p>「マレーシア高等教育事情」の講演に参加 (第4回 Salon De 大学コンソーシアム大阪を兼ねる)</p> <p>講師:奈良先端科学技術大学院大学 企画総務課評価・IR係長 日野智仁氏</p>

※「事前研修」の企画、コーディネートはSD研修コーディネーターの塩川が担当。

5. APSSA 国際会議

- 本研修は、隔年で開催されているAPSSA(The Asia Pacific Student Services Association)国際会議2018への参加を組み込んで企画した。APSSAは、アジア太平洋州の大学関係者が国・地域を越えて「学生支援業務に関する情報交換と研鑽を行うための団体」である。
- 日本では、まだまだ「海外の大学事情を調べるのは、国際交流部署の仕事」とされているが、APSSAに参加することで、国・地域を越えて、学生支援業務に関わる幅広い部署の大学教職員が「共通語としての英語」を用いて情報交換や研鑽を行っている現実を知ることができると期待されたからである。
- 今回のAPSSA国際会議2018には、12か国、56機関が参加していた(ただし、本研修団のようにグループの中に複数機関が含まれている可能性もあるので、「少なくとも56機関」ととらえるほうが適切であろう)。
- 参加教職員数は117名、参加学生数は116名、総勢389名であった。
- 会期中の2日目と3日目に行われる口頭による「事例発表・研究発表」は、全部で59であった。本研修団からは、香山由希氏(大阪女学院大学)塩川(大阪市立大学/大阪コンソーシアム大阪SD研修コーディネーター)の2名が発表を行った。
- 事例発表・研究発表の申し込みは事前に審査を受け、レフェリーから発表内容への改善点などのコメントがフィードバックされた。
- 発表申し込み数は80近くあり、そのうち59の発表が行われた。
- 今年のテーマは、「ENGAGE-ENPOWER-EVOLVE」であった。そのテーマに沿って「Employability」、「Wellness」、「Residential College」、「Student Development」、「Mobility」の5つのサブテ

ーマを選んで事例発表・研究発表が行われた。

- ・本研修参加者は、同時並行で複数の会場で行われた事例発表・研究発表を各自の関心で選択して、聴講参加した。
- ・全参加者が共通して参加する基調講演、パネルディスカッションなどもあった。

6. プレ・カンファレンス

・APSSA 国際会議 2018 の初日（8月6日）の午後には、プレ・カンファレンスとして国立マラヤ大学でワークショップが開催された。

・「共通語としての英語」でのワークショップに本研修参加者も全員参加した。

・プレ・カンファレンス・ワークショップは参加者を3つのグループに分け、「学生支援業務担当者」に求められる資質について、それぞれのグループごとで与えられた以下のサブテーマでブレインストーミングを行い、最後に全体で情報共有が行われた。

- ① グループ1 「Qualification」「Competencies」「Areas of Expertise」
- ② グループ2 「Research」「Surveys」「Investigation」
- ③ グループ3 「Resources(intellectual property, equipment, facilities)」「Income generation」

7. 現地大学訪問

研修参加者各自が、訪問先大学で「何を学んだか」は、各自の視点により異なる結果となるが、研修企画にあたっては、現地訪問大学3校（1）Taylor's University、（2）University Technology Malaysia、（3）Heriot-Watt University, Malaysia、を以下に挙げる観点から選定した。

（1） Taylor's University(私立)

- ① コンパクトに設計された都心型キャンパスの見学。(写真1)
- ② 学生からの評価を直接受けるシステムの視察。(写真2)
- ③ 受験から就職までの学生支援を一貫して「STUDENT EXPERIENCE」と位置付けるコンセプトに基づく学生支援の姿勢を知る。(写真3)
- ④ 大学が学生に伝えたいメッセージの提示の方法を知る。(写真4)
- ⑤ APSSA 国際会議 2018 参加前に訪問することを先方に依頼し、学内の観光学部（国際的に評価が高い）の実習レストランでの昼食体験をさせてもらうことも依頼。（結果的には、休業期間の訪問となったので、学生の実習レストランでの食事はできなかった。）



(写真1)

Taylor's University のキャンパス



(写真 2)

学生対応の時間が測定され、
学生からの評価もその場で行われる。



(写真 3)

受験生の受験相談コーナー、就職相談、
奨学金相談などの学生支援業務が全て
「Students Experience」の建物にある。



(写真 4)

TAYLOR'S University の来客対応
(受験生等にも対応)テーブル上のプリント。

(2) University Technology Malaysia(国立)

- ① APSSA 国際会議 2018 のメイン・ホスト校であった。
- ② マレーシアの国立大学の中でもトップクラス(2019 年度の QS 世界ランキング 228 位)。
- ③ 日本政府や日本の大学の支援で設立された「マレーシア日本国際工学院 (MJIT: Malaysia-Japan International Institute of technology)」がある。

(3) Heriot-Watt University, Malaysia(私立)

- ① マレーシアに積極的に展開されている海外大学のひとつで、イギリスの Heriot-Watt 大学のマレーシア校。
- ② Heriot-Watt 大学は、イギリスの大学ランキング 10 位、世界大学ランキング 60 位。
- ③ 英語圏の海外大学のブランチ・キャンパスを設けることでアジア、アフリカなどの学生を惹きつけるマレーシアの政策を知る。
- ④ マレーシア政府主導の高度知識集積地区に設立されたキャンパスの視察。

8. 成果報告

- ・研修終了後の成果報告としては、到達目標にも挙げていた「自大学の学生支援業務の取り組みに活かすための具体的な案を作成すること」や「マレーシアの大学視察の中から、自大学に提案すべき事項を述べること」を各参加者が所属大学に対して出張報告書等の提出を通じて実践されることが期待される。
- ・大学コンソーシアム大阪に対しては、各参加者から「研修参加報告書」を提出いただく。
- ・今回の研修に参加できなかった会員校に研修内容の共有のために 9 月 21 日(金)に「報告会」を実施する。

(本報告文責：大学コンソーシアム大阪 SD 研修コーディネーター 塩川雅美)